

<第9位> トルコ共和国地震被害に対する国際消防救助隊の派遣

2月16日、トルコ共和国のガズィアンテプ県ヌルダウにおいて、マグニチュード(M)7.8の巨大地震が発生して甚大な被害となり、国際的な支援が行われました。

日本からも「国際消防救助隊」が派遣され、緊急援助や医療支援などの支援が実施されました。

<第8位> 千葉県南部を震源とする震度5強の地震

5月11日、千葉県南部を震源とする震源の深さ40キロ、M5.4の地震が発生しました。

千葉県の木更津市で最大震度「震度5強」を記録し、軽傷8名の被害となりました。

<第7位> 台風第7号に伴う大雨被害

台風第7号は、8月15日に和歌山県潮岬付近に上陸して近畿地方を北西に進み、その後兵庫県明石市付近に再上陸しました。

鳥取県と岡山県に線状降水帯が発生し、重軽傷者70名、住家被害は、全壊40棟を含む3,397棟の被害となりました。

<第6位> 台風第6号に伴う大雨被害

台風第6号は8月2日から3日にかけて、大型で非常に強い勢力を保ったまま、沖縄から九州にかけて接近し、沖縄県、鹿児島県、熊本県、宮崎県、高知県などに大きな被害をもたらしました。

重軽傷者100名、住家被害は、全壊9棟を含む929棟の被害となりました。

<第5位> 石川県能登地方を震源とする震度6強の地震

5月5日、石川県能登地方で震源の深さ12km、M6.5の地震が発生し、珠洲市で「震度6強」を観測しました。

死者1名を含む重軽傷者48名、住家被害は、全壊40棟を含む3,397棟の甚大な被害となりました。

<第4位> 7月15日からの記録的な大雨被害

7月15日から16日にかけて秋田県で記録的な大雨が降り、河川の氾濫が相次いで秋田市の中心部が浸水するなどの被害が発生しました。

青森県でも崖崩れが発生するなど、死者1名を含む重軽傷者6名、住家被害は、全壊11棟を含む6,966棟の甚大な被害となりました。

<第3位> 台風第13号に伴う大雨被害

台風13号は、9月5日から7日にかけて日本の南を北上し、8日から9日にかけて大雨となり、東京都（伊豆諸島）、千葉県、茨城県及び福島県などで、1時間に80mm以上の猛烈な雨が降りました。

7日から9日にかけての総降水量が400mmを超えた地点や平年の9月の月降水量を超えた地点もありました。

死者3名を含む重軽傷者21名、住家被害は、全壊19棟を含む6,096棟の甚大な被害となりました。

<第2位> 台風2号に伴う大雨被害

台風2号は、5月31日から6月2日にかけて沖縄地方にかなり接近し、これに伴って梅雨前線が活発化して線状降水帯が発生し、太平洋側の広範囲が大雨となりました。

降り始めからの雨量は東海地方で500mmを超えたほか、四国地方、近畿地方、関東地方でも400mmを超え、平年の6月の月降水量の2倍を超えた地点もありました。

被害は、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、岐阜県、愛知県、静岡県、茨城県、埼玉県などに及び、死者6名、行方不明2名を含む重軽傷者57名、住家被害は、全壊24棟を含む10,276棟の甚大な被害となりました。

[出典(2位以降)] 消防庁 Web サイトほか
<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/2023/>

<第1位> 東日本大震災を上回る「超過死亡」

今年ついに「医療災害」としての「mRNA薬害」が、戦後最大の超過死亡数となってしまいました。

「予防接種健康被害救済制度」の被害申請数は増え続けて9,522件にもなり、すでに5,357件が「認定」、860件が「否認」、残りが未審査（11月29日現在）となっています。

[参考] サンテレビ Web サイト
<https://sun-tv.co.jp/suntvnews/news/2023/12/04/74137/>

国立感染症研究所などが、2022年の「超過死亡」が最大の「約11万3千人」に上ったとの推計を発表し、2020年と比べれると「約3倍相当の死亡数」にのぼります。

厚労省が「新型コロナによる死亡」としているのは、これまでの累計で「約6万人」であり、残りの「約12万人」は「予防接種健康被害」が原因（が他にはないので）と思わざるを得ません。

世界に的にも「mRNA薬害」に関連する論文が次々に発表され続けています。

株式会社小林洋行コミュニケーションズ SignalNow デスク
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-15-7
<https://kobayashiyoko-com.jp/sn/>

Copyright 2023 Strategy Corporation.